

Think The Nature Positive 九州 in KARATSU

海業と海洋環境を流域から考える

2024.12/12-13

Think The Nature Positive 九州 in KARATSU 2024.12.12-13

DAY- 1

「海業と海洋環境を流域から考える」をテーマに
様々な実践者と共にフィールドで体感し、活動を聞き
思いや問い、課題感や行動についてディスカッション

12/12(木)

環境モニタリング
実践

12/13(金)

事例共有
ディスカッション

サステナビリティセンター
東北大学 / 太齋 彰浩
海藻研究所 / 新井 章吾
日本自然保護協会 / 小林 彩
GX総合研究所 / 鳥井 要佑
マリンハビタット壱岐 / 田山 久倫
丸徳水産 / 犬束 祐徳
ふくおかFUN / 大神 弘太郎
テツシンデザイン / 先崎 哲進

唐津市環境課 / 中江 譲二
唐津市環境課 / 檜崎 徹
GBPラボラトリーズ / 小田切 裕倫
GBPラボラトリーズ / 大森 愛

ふくおかFUN / 池田 杏美
ふくおかFUN / 山崎 潤
ふくおかFUN / 智原 絵里
日本自然保護協会 / 三好 紀子
日本生命 / 岩本 昌弘
屋形石漁協
松島
佐賀玄海漁協 / 岩本 武文
七山むらづくり協議会 / 野田 宗作
唐津市水産課 / 坂本 寛和
唐津市水産課 / 池田 敬士郎
唐津市市政戦略課 / 徳田 達也

七山市民センター / 瀬戸 孝章
串浦 / 袈裟丸 彰蔵
からふさ研究会 / 吉田 善秀
KANNE / 藤田 和歌子
唐津switch / 三笠 旬太
GBPラボラトリーズ / 瀧口 直人
GBPラボラトリーズ / 武山 真紀
GBPラボラトリーズ / 低引 稔
EPO九州 / 長峰 秀幸
EPO九州 / 佐藤 直哉
長崎大学 / 濱崎 宏則

自然資本とビジネス ～海業と海洋環境を流域から考える～

開場 9:00 @唐津市民交流プラザ

9:15～9:30 <15min> 始まりの挨拶、趣旨説明 / 唐津市環境課、GBP

9:30～10:20 <50min> ブリーフィング 太齋 彰浩

～環境調査とは、調査手法について。環境DNAとは、東北大学の取り組み～

10:20～10:35 <15min> ブリーフィング 新井 章吾

～海底湧水について～

11:05～12:10 <65min> フィールド1. @浜崎海岸

～浜崎海岸にて環境DNA調査のデモンストレーション ～沿岸で実施～

12:30～ 昼食（参加者自己紹介） @浜崎公民館

14:15～ フィールド2. @玉島川流域

流域視察／玉島川 → 浜崎海岸～七山（檜原湿原・鳴神など）

最大～17:00

終了後、懇親会 17:30～19:30 @ソアビータ

唐津市の取り組み

- 唐津市版 地域循環共生圏 -

多様な主体が積極的に連携・協力し
自然資本と調和した
多様な”ビジネス”が創出/共創される街づくり

地域循環共生圏・ローカルSDGs

地域循環共生圏は、地域資源を最大限に活用し、環境負荷を最小限に抑えながら地域の独自性を生かした持続可能な地域づくりを目指す取り組み



<https://chiikijunkan.env.go.jp/>

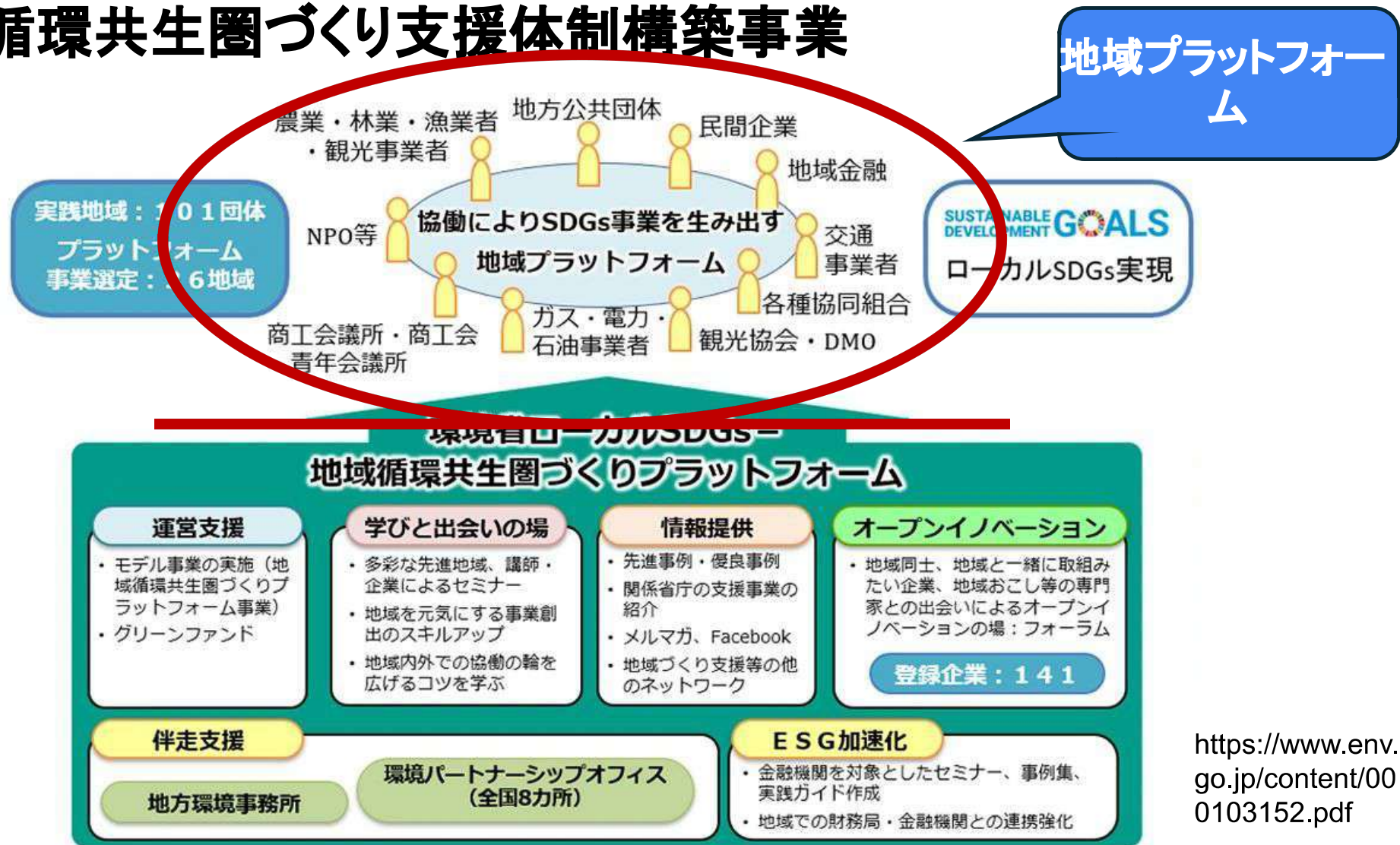
ローカル・ブルー・オーシャン ビジョン推進事業

自治体と企業等が連携した
海洋ごみ対策を支援



https://www.env.go.jp/press/press_20240426.html

地域循環共生圏づくり支援体制構築事業



<https://www.env.go.jp/content/000103152.pdf>

TTNP 九州 in KARATSU



20240730_唐津市地域循環共生圏キックオフ



<https://youtu.be/CHyOwk7V8Jl>

<https://www.saga-s.co.jp/articles/-/1291247>

プロジェクト

アサガオ プランター
がっこうきょうざいじかん
学校教材循環ぶろじゅくと

～ 外町小学校(3年生～6年生) 保護者のみなさま ～
使用しなくなったアサガオプランター(文庫)が家庭に残っていませんか?
学校に持ってきていただけないか?
唐津市役所環境課では、捨てられる学校教材を循環し、子どもたちに資源リサイクルの大切さ、ごみの減量などについて学んでいただくためのプロジェクトを検討しています。

そこで、新たな試みとして、多くがゴミとして廃棄しているアサガオプランター(文庫を含む)を環境課で回収し、リサイクル業者と連携し、新たなモノに生まれ変わる仕組みを目指していきたいと考えています。生まれ変わったリサイクル品は、学校での環境教育の授業で「見て」「触れて」「学んで」いただく予定です。

◎10月28日(月)まで
◎各クラスの担任の先生まで持ってきてください
◎できれば、土を落としていただけるとより助かります

リサイクルイメージ

問い合わせ: 唐津市役所 環境課 カarbonニュートラル推進係 0955-72-9115

イベント

Plastics Smart 環境省ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業

海中に沈んだゴミが海洋生態系に与える影響を考えよう

海のゴミ拾い

参加者募集

11月9日(土)

時間 10:00～12:00 (9:30受付)
※荒天の場合 11月16日に延期

開催場所 浜崎海岸公園

対象 どなたでも (小学生以下は保護者同伴)

持ち物 飲み物、軍手

申し込み50名にマイボトルがプレゼントします!
※マイボトルの色は指定できません。

主催 環境課
TEL0955-72-9115

お申し込み方法
下記URLもしくはQRコードにてお申し込み下さい
<https://t.me/kankoukyoku>
0955-72-9115

セミナー

参加料 無料

唐津ブルーカーボンセミナー

開催日時 令和6年11月12日(火)
14:00～15:50

会場 唐津市役所大会議室(本庁舎4階)

基調講演
「脱炭素社会に向けたブルーカーボンの重要性」
九州大学 大学院芸術工学府 環境設計部門 准教授 早瀬 百合子 氏

特別講演
「ブルークレジットの制度について ～クレジット認証への道～」
ジャパンブルーエコノミー 技術研究組合 理事長 桑江 朝比呂 氏

事例紹介
「串浦の取組みについて」
串浦の環境を未来へ 繋げる会 会長 袈裟丸 彰蔵 氏

フリーディスカッション
「唐津からのさらなる」ブルークレジット認証事例を目指して」
講演者及びご参加の皆様との熱い意見交換の場です!

【主催】唐津市
【お問い合わせ】唐津市役所 高等教育機関等連携・交流推進室 ☎ 0955-72-9115

九州NPフォーラム in Karatsu(骨子)

プレ告知！
絶賛企画中

【会の目的】

NPにむけた活動をしている多様なメンバー(九州中心)が唐津に集まり知見を共有。
つながりや気づきをきっかけとする新しいプロジェクトや、実験、共同体を生み出す。
& 北部九州エリアが実証や実装しやすい地域として認知される。→人金情報アクションが集まる
& 北部九州エリアの実践者たちの繋がりが強くなる。→NPな世界にむけた活動のギア・スケール・機運を上げる。

時期 : 2025年3月27,28日(調整中) 10～17時 27日現場エクスカージョン(オプション)、28日サミット
場所 : 佐賀県唐津市(大手口センタービル、ホール、会議室)
主催 : 唐津市、GBP
共催、協力: 佐賀県、環境省、、、
後援 : NPに関心のある企業

【参加者】 参加費無料、懇親会有料

- ・壱岐、五島、対馬、福岡、熊本の事業者、自治体、研究機関、学生
- ・九州地域以外の実践者、研究者、企業、学生

※オプションで共生圏ツアーを企画、唐津や近隣エリアの事例や施設をめぐる。(前日)

※この会を皮切りに、九州で開催幹事(自治体)を循環させていく。次回は対馬、五島、福岡、宗像、糸島、壱岐など候補

↳ 広域の協議会・コンソ的な集まり語る会を蘇生。

TTNP

Think The Nature Positive

ネイチャーポジティブを考える

ネイチャーポジティブに資するプレイヤーは増えてきています。
ネイチャーポジティブに関心のある「企業」も。

しかし、短期的なKPIやKGIはたてづらく、アプローチ(活動)がネイチャーポジティブに寄与したかどうかの判断は現時点で難しいといわれています。

、、、となった時、どうしても手法がわかりやすく、結果が出やすい問題から取り組み、広報してしまうのが人間であり、市場です。

理想の姿とのギャップはまだまだ大きい。
ギャップを埋める答えがあるのかもわからない。
なんならギャップすら、まだ見えていないかもしれない。

そんな中で、より良い未来を模索創造し、
変化していくには、、、
たくさんの人を笑顔にするには、、、
利他を知り、問い、考え、動き続ける”誰か”と”誰か”の「縁」が必要
なんじゃないかって、、、思うんです。

TTNPは、そんな「縁」をつくる、うみだす場所であり概念です。
この場を通して、これからの暮らしとビジネスの在り方について一緒に悩み、考え、行動していきましょう。

Think The Nature Positive

GBP LABO
RATORIES

TTNP 九州 in KARATSU

Think The Nature Positive (NP研究会)

各地域でネイチャーポジティブに関わるアクションを既に起こしている人・行政・地域リーダー・企業が、マインドやスキル・リソース、課題をシェアしながら広域で連携できる場を創出。
2024年度は仲間づくりの意味もこめたフィールドワークを複数回にわたり実施する。

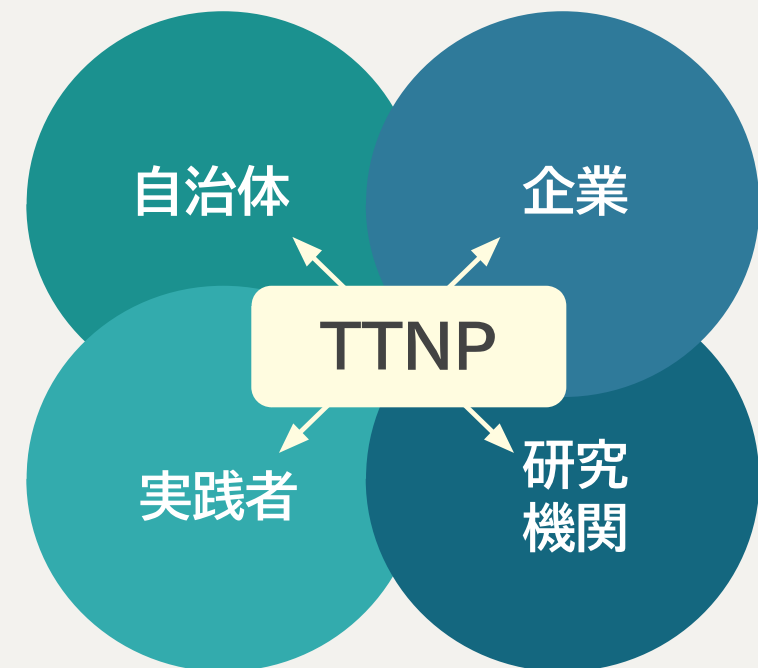
< TTNPの動き、機能 >

● オフサイト交流

- ↳ NP実践地域への視察(ビジョンの共有,活動体感、対話)
- ↳ NP注力地域との意見交換(課題の共有,インパクト共創)

● 新規事業の創造、事業連環

- ↳ 研究機関と連携した課題地域とのPoCマッチング
- ↳ 既存事業のNP化及び新規事業の実装や実証実験の伴走



DAY- 1

Think The Nature Positive 九州
in KARATSU 20241212

参考資料

～環境DNA調査デモ～ 玉島川の河口と流域

Aポイント：河口
Bポイント：七山
Cポイント：檜原湿原



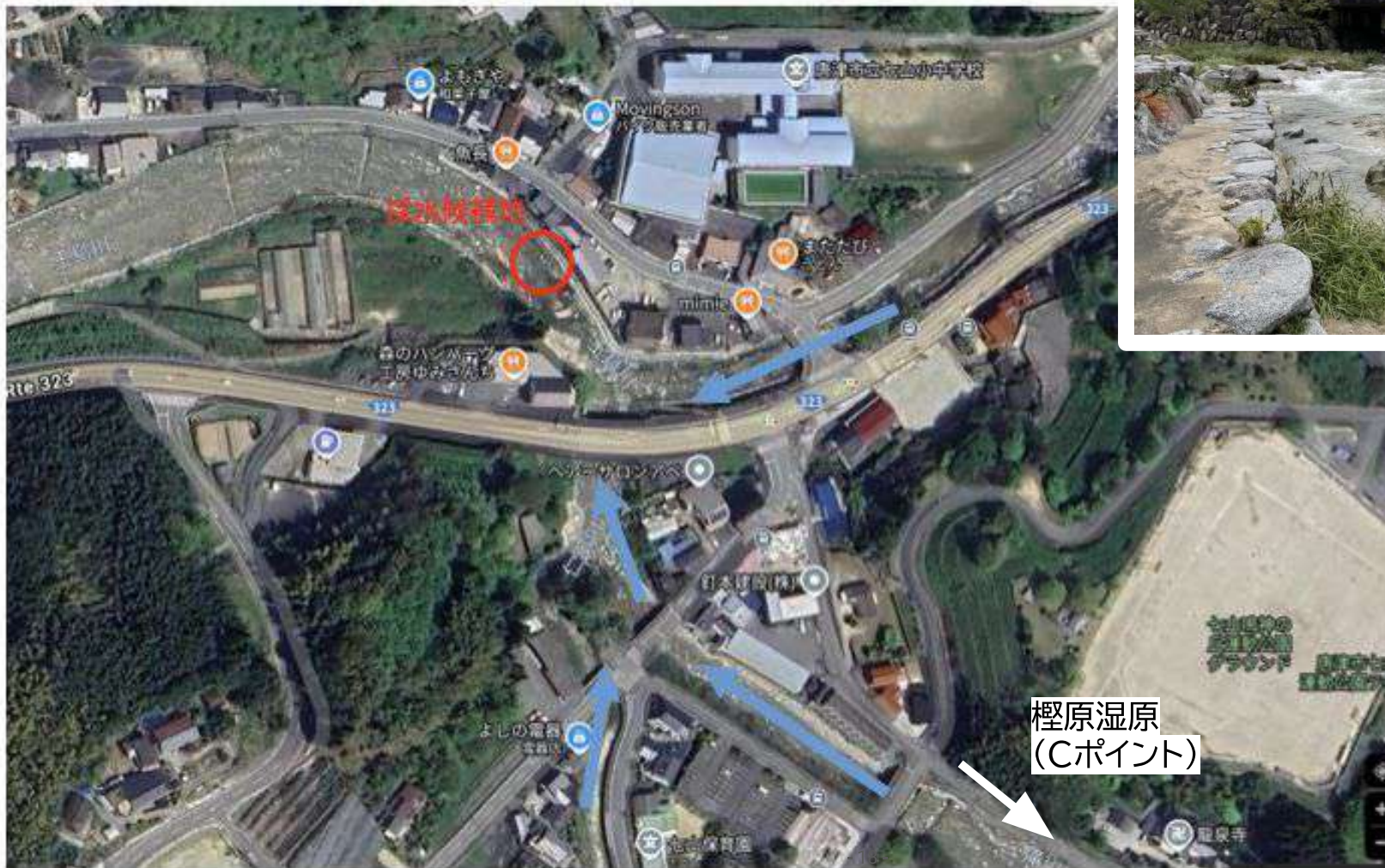
【浜崎海水浴場多目的駐車場】 〒849-5131 佐賀県唐津市浜玉町浜崎



七山

Bポイント

【NPO法人七山むらづくり協議会】
佐賀県唐津市七山藤川2268-1



桧原湿原

Cポイント

【桧原湿原駐車場】
佐賀県唐津市七山池原乙789



東部(七山)地域のまちづくり構想

東部地域のまちづくり構想		七山
まちづくり の主要課題	1 継続的な都市・農山村交流による地域振興 2 多面的機能を有する自然環境の保全・活用 3 道路網の整備等による観光・交流軸の強化と回遊性の向上 4 誰もが快適で安心・安全に暮らし続けることができる環境づくり	
まちづくり の目標	清流、温泉、多様な生態系などの山村特有の地域資源を守り、魅力を高め、体験できる都市・農山村交流の地域づくり	
まちづくり の重点方針	1	都市住民を惹きつける四季折々の豊かな自然と、その中で育まれた農産物を活かし、体験型民泊事業や農産物直売所などと連携した都市・農山村交流を促進します
	2	多面的な機能を有する森林や、檜原湿原などの自然環境・生態系を保全するとともに、自然体験や環境学習の場としての活用を図ります

https://www.city.karatsu.lg.jp/machidukuri/machi/toshi/kekaku/r4masterplan/documents/01_2toshimasu2.pdf

東部(七山)地域のまちづくり構想

東部地域の重点方針の位置図



水環境総合情報サイト



ホーム

サイトマップ

水環境サイト集

利用環境

公開情報

内容切替

表示項目

☐ 河川

その他の調査地点

☐ 公共用水域水質測定

☒ 広域総合水質測定

☐ 水浴場水質調査

☐ 東京湾アピールポイント

☒ 全国水生生物調査

☐ 名水百選

☐ 平成の名水百選

☐ 快水浴場百選

表示年度

2023 年度



凡例

調査地点

広域総合水質測定

● 測定地点

全国水生生物調査

● 調査地点

<https://water-pub.env.go.jp/water-pub/mizu-site/index.asp>

TTNP 九州 in KARATSU

水環境情報に関する総合的な情報サイト

<https://www.env.go.jp/water/mizu.html>

令和5年度 水生生物調査結果一覧（調査地点）		
ダウンロード		
唐津市（環境課） 調査結果		
（※）指標生物の出現状況 ●：多く発見、○：発見、－：未発見		
生息生物の詳細をみる		
水質	指標生物名	指標生物の出現状況
水質階級Ⅰ	アミカ類	-
	ナミウズムシ	-
	カワゲラ類	○
	サワガニ	○
	ナガレトビケラ類	●
	ヒラタカゲロウ類	○
	ブユ類	-
	ヘビトンボ	●
	ヤマトビケラ類	○
	ヨコエビ類	-

水生生物による水質評価法マニュアル
日本版平均スコア法
<https://www.env.go.jp/content/900543703.pdf>

玉島川 七山鳴神の庄

水質階級Ⅱ	イシマキガイ	-
	オオシマトビケラ	-
	カワナ類	-
	ゲンジボタル	○
	コオニヤンマ	-
	コガタシマトビケラ類	○
	スジエビ	
	ヒラタドロムシ類	-
水質階級Ⅲ	ヤマトシジミ	-
	イソコツブムシ類	-
	タイコウチ	
	タニシ類	-
	ニホンドロソコエビ	-
	シマイシビル	-
	ミズカマキリ	-
	ミズムシ	-
水質階級Ⅳ	アメリカザリガニ	-
	エラミズ	-
	サカマキガイ	-
	ユスリカ類	-
	チョウバエ類	-
水質階級の判定		水質階級Ⅰ

調査項目	調査結果
調査地点名	七山鳴神の庄裏
河川名	玉島川
調査年月日	2023/08/29
時刻	10時
参加人数	20人
天候	晴れ
水温	20（℃）
川幅	20（m）
生物を採取した場所	川の中心
生物採取場所の水深	30（cm）
流れの速さ	普通(毎秒30～60cm)
川底の状態	小石と砂
水のにごり	透明またはきれい
水のおいしさ	においは感じられない
水のその他の状態	
魚	
水草	
鳥	
その他の生物	
BOD	
BOD 75%値	BOD →生物化学的酸素要求量 (Biochemical Oxygen Demand)
環境基準類型	水質の汚れを表す代表的な指標
備考	
写真	
写真のコメント	

檜原湿原（かしばるしつげん）

九州の「尾瀬」ともよばれる、自然環境保全地域特別地区

～100種類を超える植物が生息～

佐賀県中央部の標高590mに位置し、古くから地元の人々が関わり、守ってきた里山の湿原です。貧栄養型の低茎湿原からヨシ・マコモの高茎湿原まで連続的な湿原形態が見られる他、ジュンサイ、ヒツジグサが生育する水域、周辺の森林と草原など、生態的多様性に富むとともに、ミツガシワ、ヒメタヌキモ、シズイ、トキソウ、ハッチョウトンボなど特殊性、希少性の高い動植物が多数見られ、九州でも屈指の自然環境となっています。

中心部の8haは佐賀県の自然環境保全地域特別地区に指定され、継続的な保全が図られています。

檜原湿原地区自然再生全体構想 平成17年

<https://www.env.go.jp/content/900493655.pdf>



対象地域：佐賀県

再生課題：湿原の再生



- 事務局
佐賀県有明海再生・自然環境課
- 対象地域
佐賀県唐津市
(佐賀県唐津市七山池原字榎原に位置し、佐賀県自然環境保全地域特別地区に指定されている8haの範囲)
- 協議会 : H16. 7. 4 設立
- 全体構想 : H17. 1. 26 策定
- 実施計画 : H17. 3. 31 策定
(R6. 3現在)



ハッチョウトンボ

かしばるしつげんちく

榎原湿原地区自然再生協議会

再生目標

昭和中期頃の湿地植生を再生し、人為活動との適切な関係の再構築を目指す。



自然再生の手法

- 草刈り、耕起等による遷移の抑制
- オオミズゴケ他の特定植物の除去
- 堆積土砂の除去
- 湿地周辺林の管理（落ち葉かき、除伐等）

榎原湿原は面積約120haの湿地で、貴重な湿生植物、昆虫などの宝庫であり、野焼きや草刈り等の継続的な人為的管理により自然環境が保全されてきました。しかし、緩やかな遷移の進行やオオミズゴケ他特定植物の繁茂、周辺域からの土砂の流入、周辺森林の成長等により、湿原植生の劣化が進行しています。

このため、野焼きの継続や流入土砂の除去等、湿地環境を良好な状態へと再生する取組を進めています。また、地元住民が主体となった観察路の整備、企業によるボランティア活動、研究者による調査等、湿原保全に多くの方々が関係する取り組みも行っています。



オオミズゴケ堆積による植生の劣化



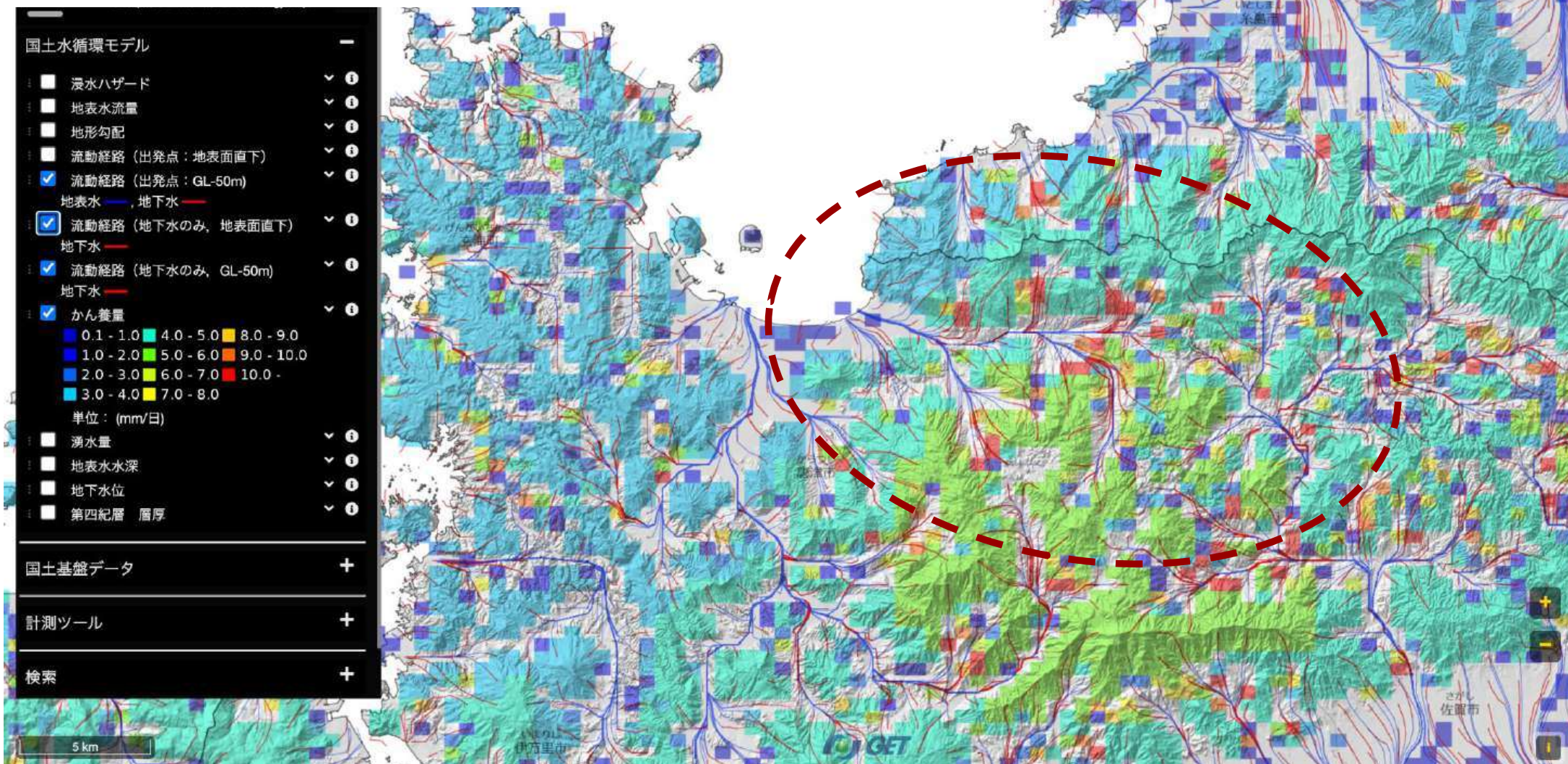
土砂堆積部分の浚渫



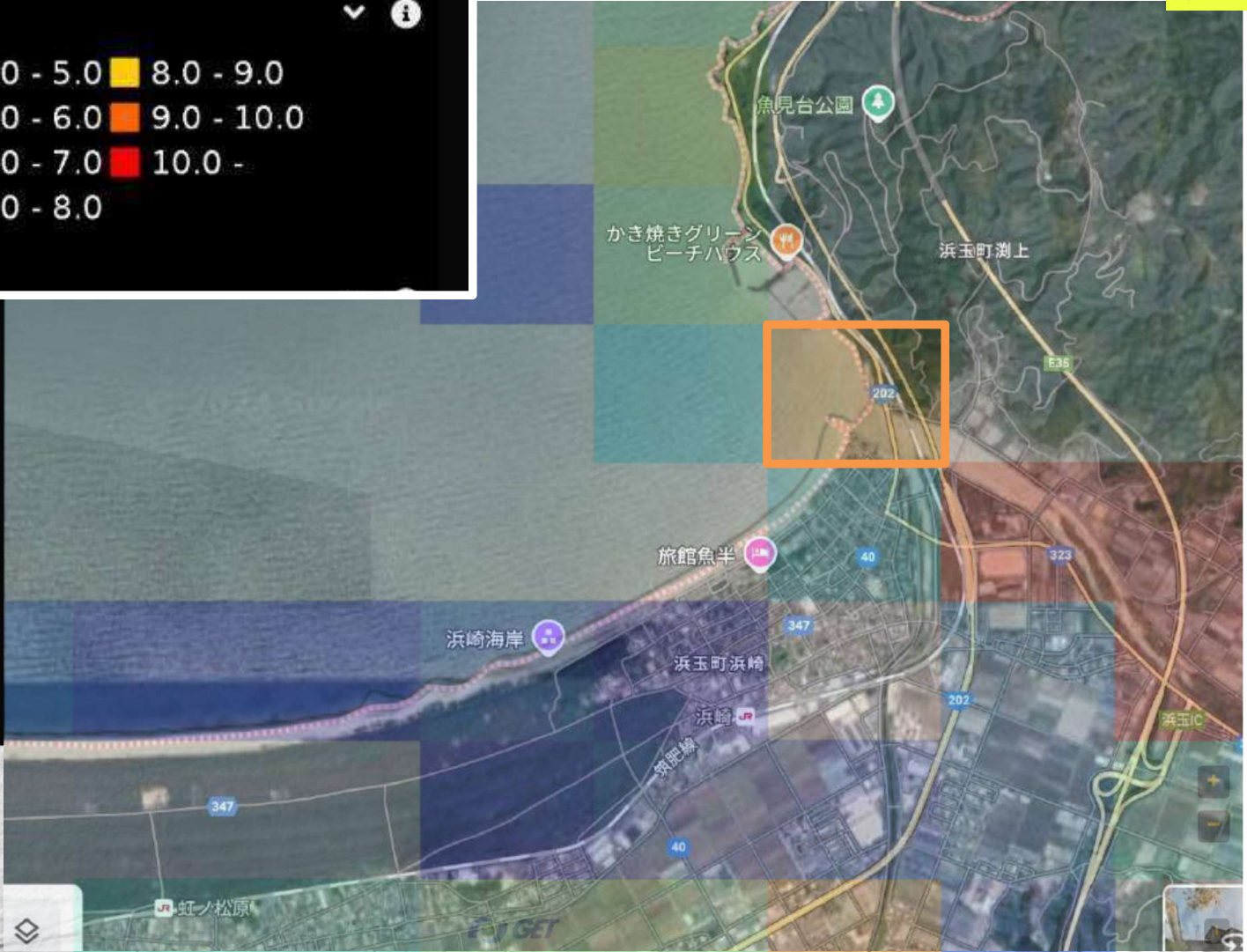
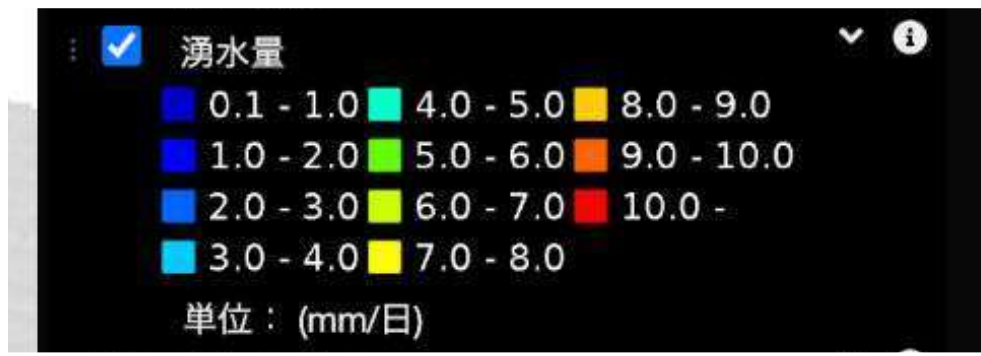
再生事業後に再生した多様な植生



企業によるボランティア活動
(落ち葉かき)



湧水量



ブリーフィング(レクチャー)



太齋さん



新井さん

フィールドワークA 玉島川河口 環境DNA採取



フィールドワークA 玉島川河口 海底湧水採取



フィールドワークB 玉島川河口 七山エリア むらづくり協議会の活動紹介・環境DNA採取



フィールドワークC 檜原湿原 環境DNA採取・湿原散策



懇親会



(対馬、そう介プロジェクトの説明)



(講師と地域実践者、唐津市の熱いトーク)

懇親会



Think The Nature Positive 九州 in KARATSU 2024.12.12-13

DAY- 2

「海業と海洋環境を流域から考える」をテーマに
様々な実践者と共にフィールドで体感し、活動を聞き
思いや問い、課題感や行動についてディスカッション

12/12(木)

環境モニタリング
実践

12/13(金)

事例共有
ディスカッション

サスティナビリティセンター
東北大学 / 太齋 彰浩
海藻研究所 / 新井 章吾
九州大学 / 菅 浩伸
日本自然保護協会 / 小林 彩
GX総合研究所 / 鳥井 要佑
マリンハビタット壱岐 / 田山 久倫
丸徳水産 / 犬束 祐徳
ふくおかFUN / 大神 弘太郎
テツシンデザイン / 先崎 哲進

唐津市環境課 / 中江 譲二
唐津市環境課 / 檜崎 徹
GBPラボラトリーズ / 小田切 裕倫
GBPラボラトリーズ / 大森 愛

ふくおかFUN / 池田 杏美
ふくおかFUN / 山崎 潤
日本自然保護協会 / 三好 紀子
日本生命 / 岩本 昌弘
九州製鋼 / 高本 勇
九州製鋼 / 深堀 竜太郎
九州製鋼 / 河知 大介
唐津西高校 / 田島 正義
唐津バ イマス / 小山 正人
建設技術研究所 / 坂本 健太郎
建設技術研究所 / 長野 達也
建設技術研究所 / 小野 篤志
唐津市水産課 / 坂本 寛和

佐賀玄海漁協 / 岩本 武文
KANNE / 藤田 和歌子
日本建設技術 / 金丸 彦一郎
日本建設技術 / 金丸 純司
串浦 / 袈裟丸 彰蔵
唐津switch / 宮田 修
GBPラボラトリーズ / 瀧口 直人
GBPラボラトリーズ / 武山 真紀
GBPラボラトリーズ / 低引 稔
EPO九州 / 長峰 秀幸
EPO九州 / 佐藤 直哉
長崎大学 / 濱崎 宏則
九州大学 / 神吉 隆行

自然資本とビジネス ～地域が自然資本で稼ぐ持続可能なシステムを考える～

9 : 00～ 9 : 15 ——— 始まりの挨拶（唐津市/GBP）

9 : 20～ 9 : 55 <35min> インプットトーク① 太齋 彰浩

10 : 00～10 : 35 <35min> インプットトーク② 新井 章吾

10 : 40～11 : 10 <30min> インプットトーク③ 小林 彩

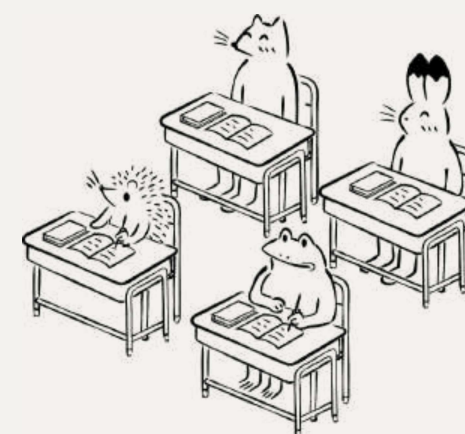
～ ～ ～ 休憩 ～ ～ ～

11 : 25～12 : 00 <35min> インプットトーク④ 菅 浩伸、大神 弘太郎

12 : 05～12 : 40 <35min> インプットトーク⑤ 田山 久倫、犬束 祐徳

～ ～ ～ 昼食 ～ ～ ～

13 : 55～16 : 00 <125min> グループワーク、発表、クロージング



はじまりの挨拶



唐津市役所 檜崎さん



小田切さん

インプットトークの様子



新井さん



太齋さん

インプットトークの様子



唐津のプレイヤーのご紹介



袈裟丸さん



宮田さん

14:05-14:20

ワークイントロダクション リフレクション

食後のはらごなしの時間

前提確認

自然は危機に瀕している

前提確認

自然の便益は みんなに影響している

企業活動、暮らし、はたらき、生命、、、

生きている地球レポート 2024 / WWF

2024/10/10

1分30秒

2024 Living Planet Report

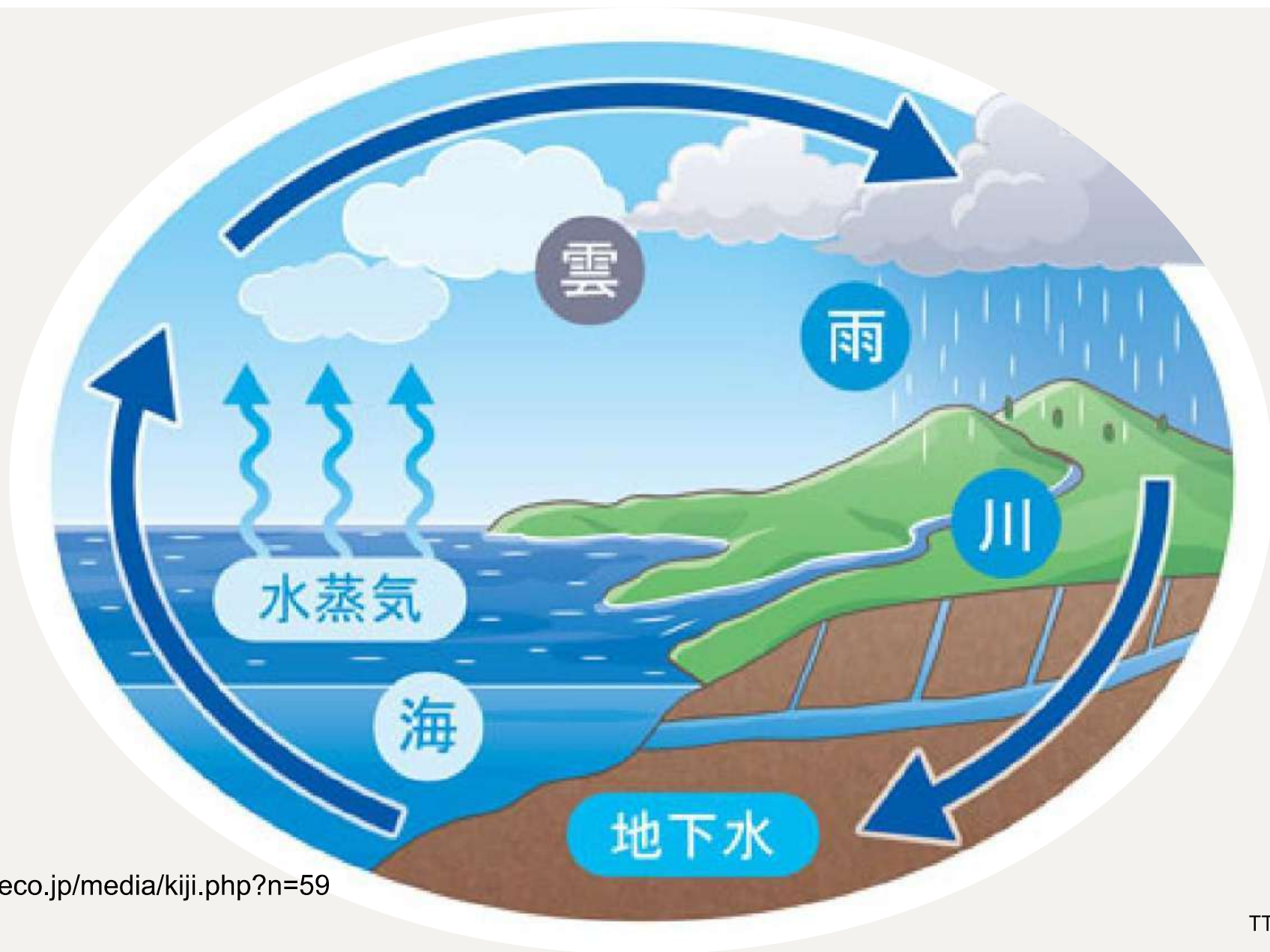
日本語字幕



前提確認

海、山、川、土壌、大気

全ては繋がっている



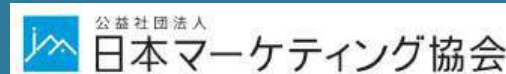
<https://morieco.jp/media/kiji.php?n=59>

TTNP 九州 in KARATSU

外部環境を少し

社会の価値観が変わってきている

マーケティングの定義が34年ぶりに刷新（2024年）



2024年

～ マーケティングとは ～

1990年

顧客や社会と共に価値を創造し、その価値を広く浸透させることによって、ステークホルダーとの関係性を醸成し、より豊かで**持続可能な社会**を実現するための構想でありプロセスである。

注 1) 主体は企業のみならず、個人や非営利組織等がなり得る。

注 2) 関係性の醸成には、新たな価値創造のプロセスも含まれている。

注 3) 構想にはイニシアティブがイメージされており、戦略・仕組み・活動を含んでいる。

企業および他の組織1)が**グローバル**な視野2)に立ち、顧客3)との相互理解を得ながら、公正な**競争**を通じて行う市場創造のための総合的活動4)である。

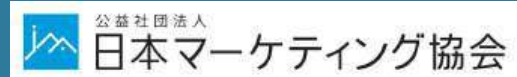
1) 教育・医療・行政などの機関、団体などを含む。

2) 国内外の社会、文化、自然環境の重視。

3) 一般消費者、取引先、関係する機関・個人、および地域住民を含む。

4) 組織の内外に向けて統合・調整されたりサーチ・製品・価格・プロモーション・流通、および顧客・環境関係などに係わる諸活動をいう。

マーケティングの定義が34年ぶりに刷新（2024年）



マーケティングの意味が、製品・サービス**提供側目線**の
「市場創造活動（＝売るための仕組みづくり）」
、、、から
企業・顧客・社会が**共同で行う「価値の創造」**による
「ステークホルダーとの**関係性醸成**」に変化

<https://www.jma-jp.org/info/news/916-marketing>

事業観：領地の奪い合いから、よりよい社会の開拓へ

競合と競争しながら
限られた領地を奪い合う

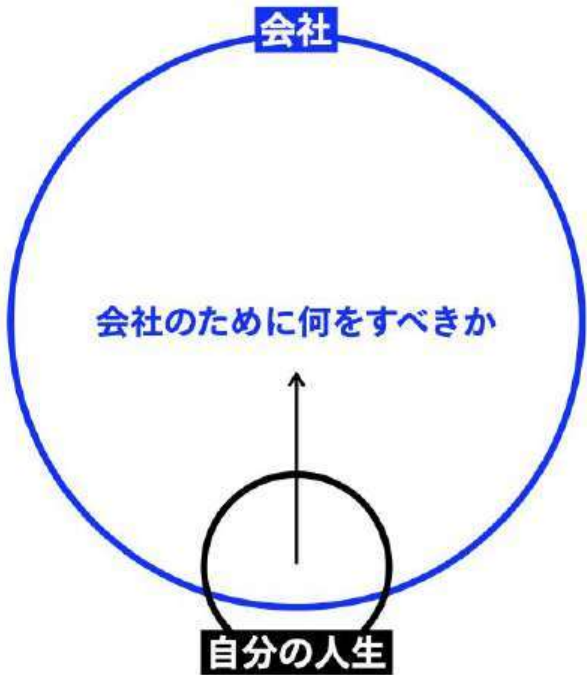


仲間と共創しながら
よりよい社会の可能性を探究する



キャリア観：会社中心から人生中心へ

会社中心のキャリア観



会社のために隷属し
ミッションに自分を押し込める

人生中心のキャリア観



さらなる自己実現を探究するための
ひとつの構成要素として会社がある

企業と従業員の関係性 ～仕事と私生活の融合～

Work Life Balance



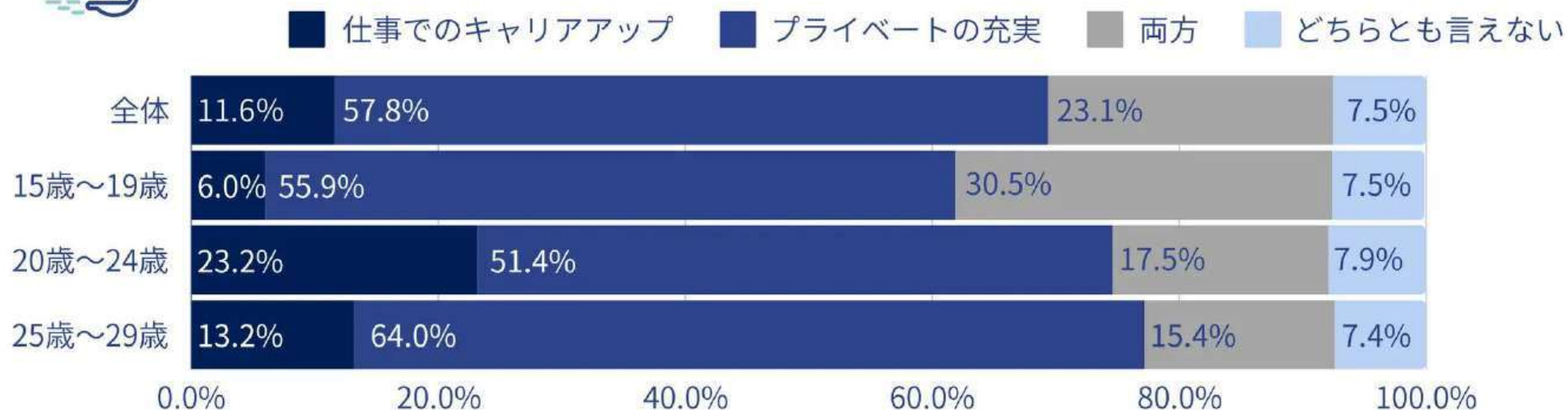
Work Life Integration



地方暮らしに憧れが5割 そのうち4人に1人が地方活性化のための活動に関与



【年代別】あなたは人生において
「仕事でのキャリアアップ」と「プライベートの充実」の
どちらを大切にしたいと思いますか？



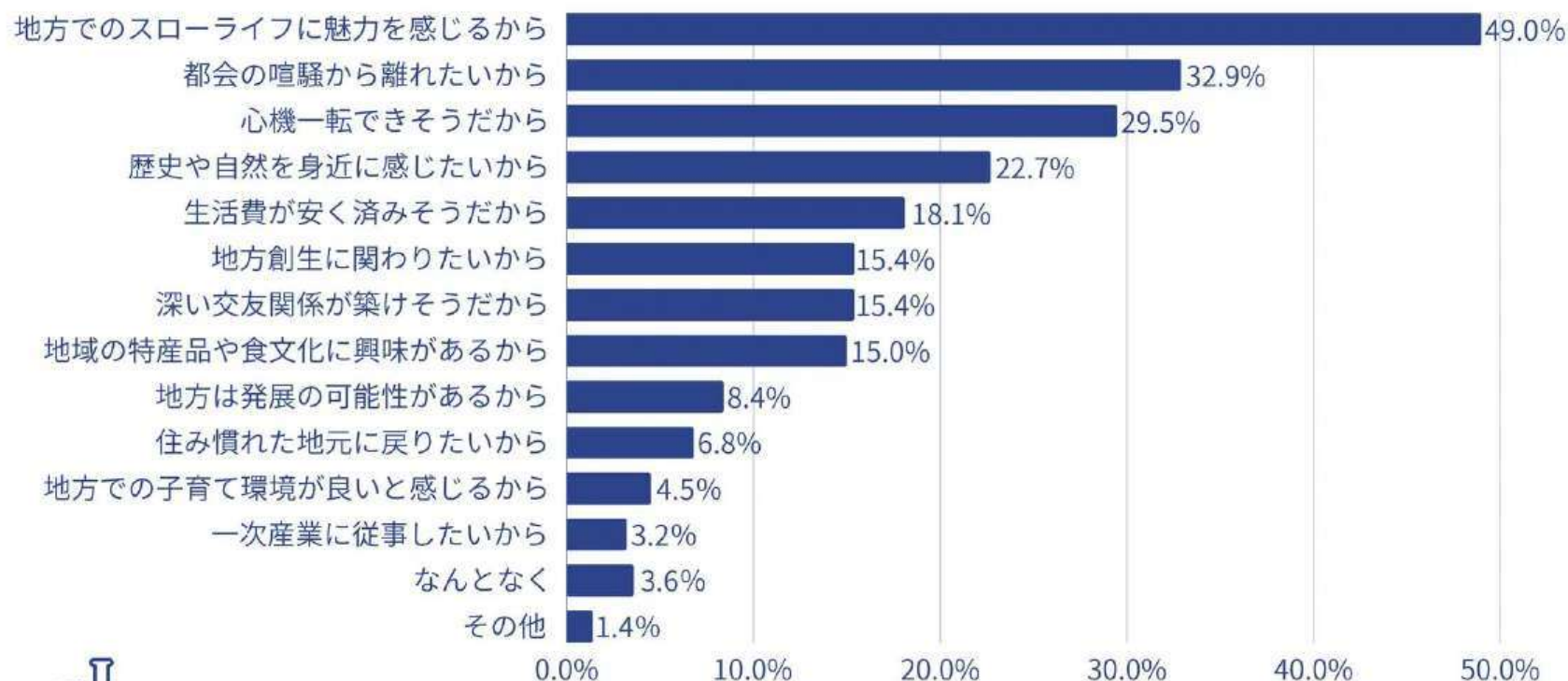
地方暮らしに憧れが5割 そのうち4人に1人が地方活性化のための活動に関与



地域創生ラボ

なぜ地方で暮らすことにあこがれているのですか？

(複数回答可／3つまで)



対象：「地方暮らしにあこがれをもっている」と回答した人 (n=441)

孤独・孤立社会が私たちに問うていること

Wedge

Guiding Japan
forward

ウェッジ

OCTOBER 2024
Vol.39 No.10
定価 ¥700

10

Special Report

孤独・孤立社会の果て 誰もが当事者になる時代



「成長を享受する一方で、つながりを捨ててきた現代社会を生きる我々にとって、孤独・孤立は、もはや誰もが当事者になりうる。」

なぜ繰り返されるのか? 混沌の世界と日本の針路 サッカー界は成長できる

日本社会を支えていた 「血縁」「地縁」「会社縁」の揺らぎ

孤独・孤立は誰が対処すべき問題なのか。内閣府の定義によれば、「孤独」とはひとりぼっちと感じる精神的な状態や寂しい感情を指す主観的な概念であり、「孤立」とは社会とのつながりや助けが少ない状態を指す客観的な概念である。孤独と孤立は密接に関連しており、どちらも心身の健康に悪影響を及ぼす可能性がある。政府は2021年、「孤独・孤立対策担当大臣」を新設し、この問題に対する社会全体での支援の必要性を説いている。

戦後日本は、高度経済成長期から現在に至るまで、「個人の自由」が大きく尊重され、人々は自由を享受する一方、社会的なつながりを捨てることを選択してきた。その副作用として発露した孤独・孤立の問題は、自ら選んだ行為の結果である・・・

失われた「共同の世界」

サービス化が行き届いた快適な社会では、面倒な人間関係を築かなくても、困ったことがあれば「お金で解決しよう」という発想をしがち。

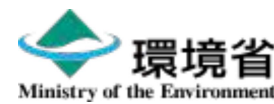
>> サービスもお金で解決できる面倒さにフォーカスするようになる。

>>> 一周回って、結局面倒な関係構築にお金を使わざるを得なくなる。
(手遅れの可能性も)

<https://wedge.ismedia.jp/articles/-/35215?layout=b>

TTNP 九州 in KARATSU

①環境教育、②環境保全、③環境活動協働の基本方針変更（2024年5月）



【主な変更点】

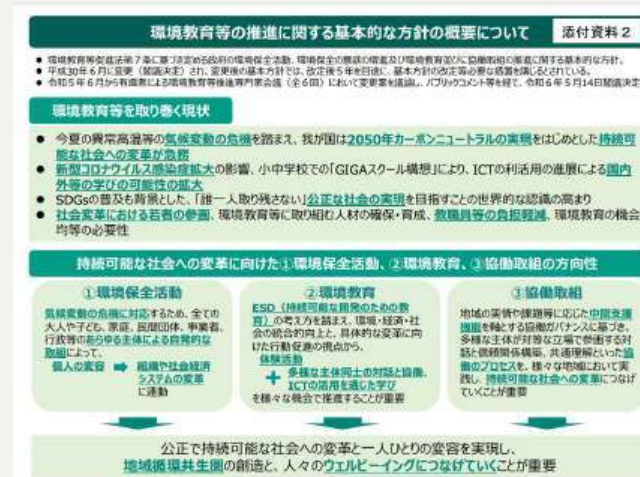
・環境教育の目的として、気候変動等の危機に対応するため、個人の意識や行動変容と組織や社会経済システムの変革を連動的に支援すること。

・環境教育において特に重視すべき方法として、これまで重視してきた体験活動に加えて、**多様な主体同士の対話と協働を通じた学び**やICTを活用した学びの実践を、学校、地域、企業等の**様々な場で推進**すること。

・学校内外での対話と協働による学びの推進に向けた、学校と地域・団体・企業等をつなぐ**中間支援機能の充実**による、学校の教職員の負担軽減と教育の質向上の両立を図ること。

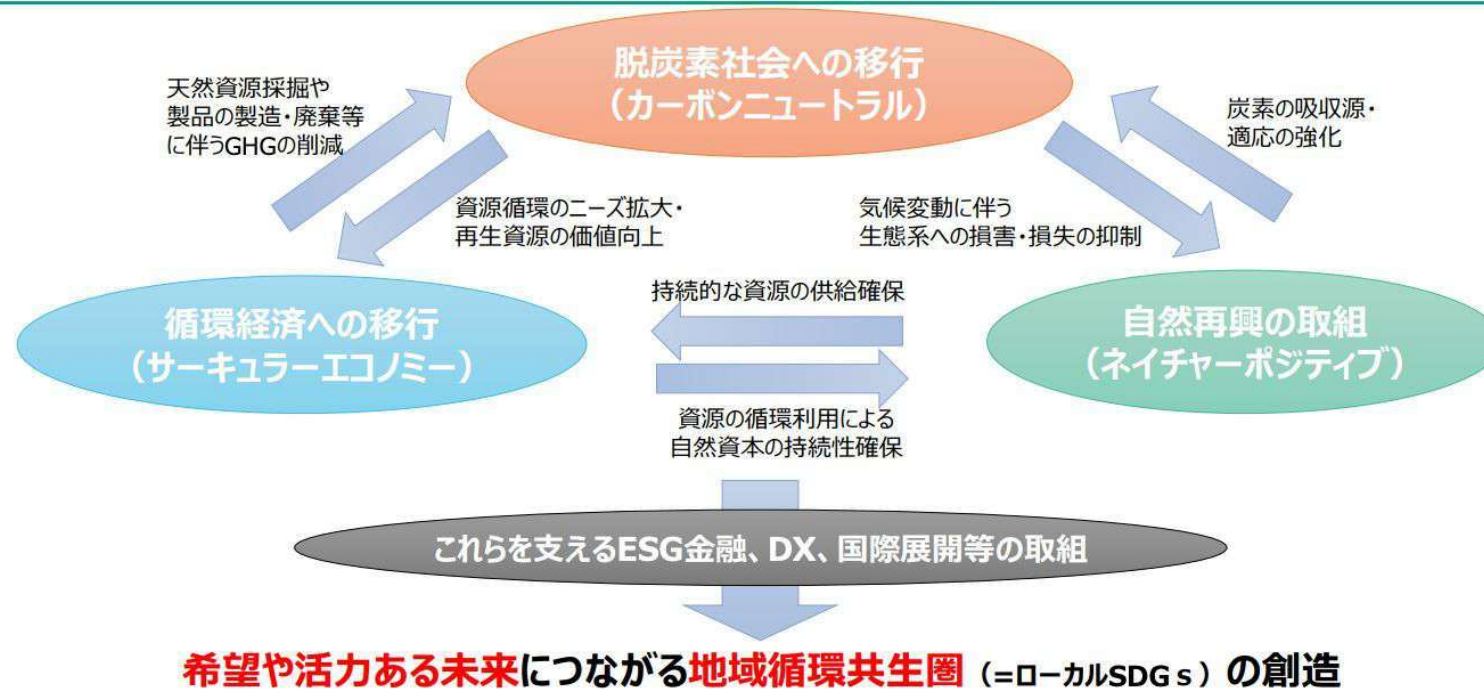
・これらを推進する具体的な方策の一つとして、中間支援組織の強化等を掲げ、その足掛かりとしてESD活動支援センターや地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)及び地方環境パートナーシップオフィス(EPO)等の既存の中間支援組織の活用を図ること。

https://www.env.go.jp/press/press_03176.html



サステナブルな経済社会の実現に向けた統合的アプローチの重要性

- 脱炭素社会への移行は、循環経済への移行や自然再興の取組と相互に関係しており、それぞれの取組間でトレードオフを回避しつつ、相乗効果が出るよう統合的に推進することにより、持続可能性を巡る社会課題の解決と経済成長の同時実現を図ることが重要。
- その際、利用可能な最良の科学に基づき、データも活用しながら政策の立案・実施に取り組むことが重要。
- 実際の取組については、地域が主体となって、炭素中立に向け自然資本を生かし、相互に支え合う自立・分散型の循環を実現し、我が国発のモデルとして世界にも発信し、希望や活力ある未来につなげることが重要。



- 脱炭素社会への移行は、気候変動対策と経済成長の両立を目指す。それぞれの取組間でト
- リードオフを同様に実施し、社会課題の解決と
- 経済成長を両立させる。

Climate-Nature-Circular Nexus

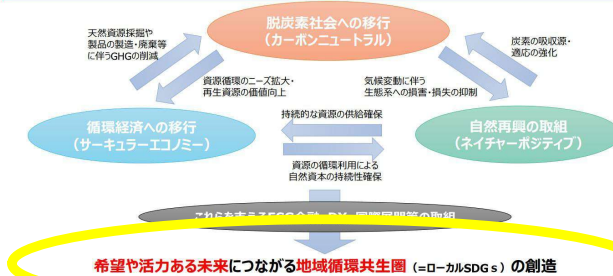
気候も自然も循環も！！ 統合的アプローチ

生物多様性、水、食料、健康、気候変動など、現在世界が直面するさまざまな危機には相互に密接なつながり（ネクサス）があり、個別のアプローチでは対処できないことが明らかになってきている。

希望や活力ある未来につながる地域循環共生圏（＝ローカルSDGs）の創造

サステナブルな経済社会の実現に向けた統合的アプローチの重要性

- 脱炭素社会への移行は、循環経済への移行や自然再興の取組と相互に関係しており、それぞれの取組間でトレードオフを回避しつつ、相乗効果が出るよう統合的に推進することにより、持続可能性を巡る社会課題の解決と経済成長の同時実現を図ることが重要。
- その際、利用可能な最良の科学に基づき、データも活用しながら政策の立案・実施に取り組むことが重要。
- 実際の取組については、地域が主体となって、炭素中立に向け自然資本を生かし、相互に支え合う自立・分散型の循環を実現し、我が国発のモデルとして世界にも発信し、希望や活力ある未来につなげることが重要。



10

希望や活力ある未来につながる地域循環共生圏 (=ローカルSDGs) の創造

まとめ



- ・自然は危機に瀕している
- ・自然の便益(めぐみ)はみんなに影響している
- ・海、山、川、土壌、大気⇔私たちはつながっている

・・・だけど、、、だから、、、よくわからないよね

- ・これからのキーワードは
共創、仲間、持続、キャリア共助、社会資本、熱量
＝地域循環共生圏

ビジネスのヒントに???

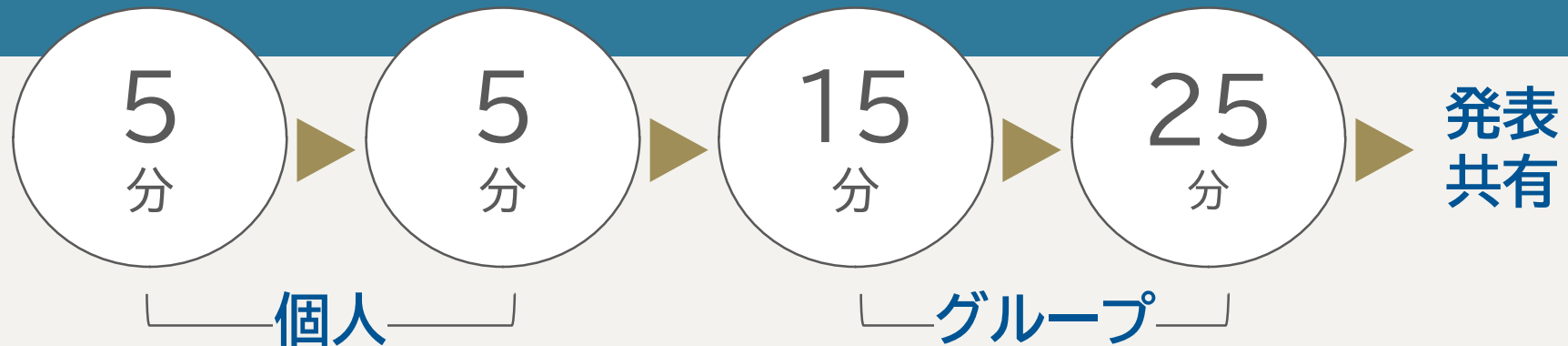
14:20-16:00

ワーク

ありたい未来をディスカッション～共有する時間

ディスカッションテーマ

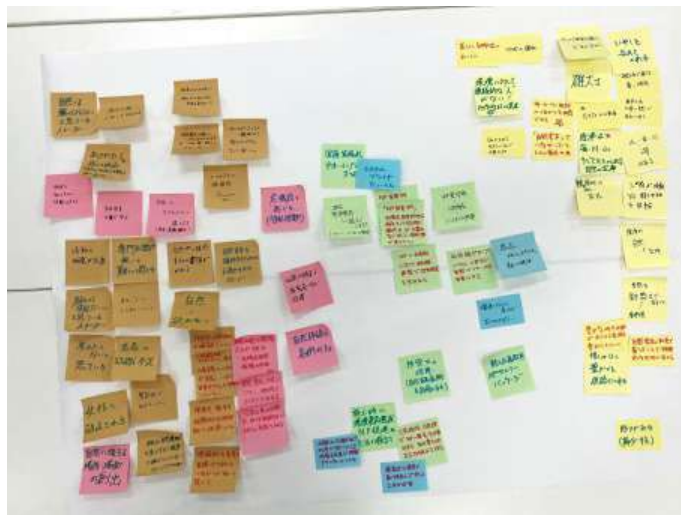
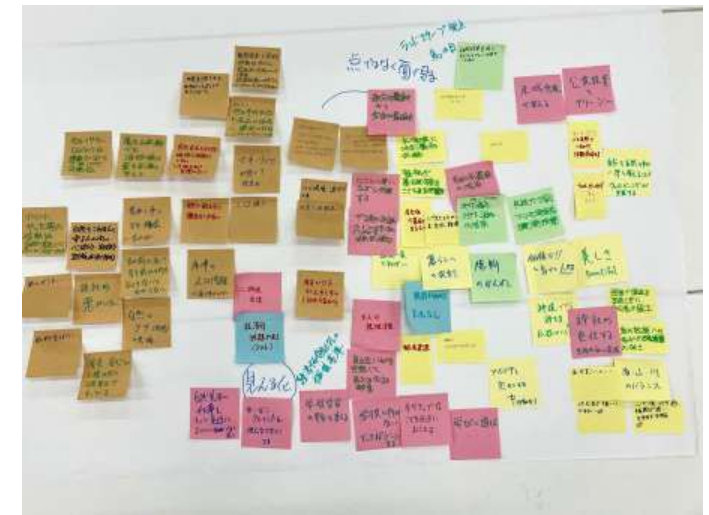
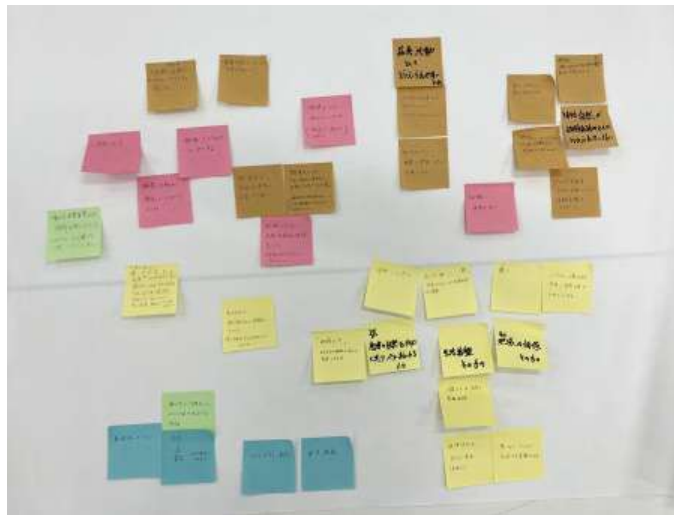
地域が自然資本で(価値を可視化もしくは創出することで)
稼ぐ持続可能なシステムを考える



ワークショップの様子



グループワーク アウトプット



茶色の付箋

課題や問いやモヤモヤ

黄色の付箋

自然資本の価値

発表の書き記し

オダチーム・地域の既存の課題と結びつける

- ・みんなで議論することも大事だが、それ以外にまずはやることが大切
→失敗も含めてシェアする

Bチーム・教育的な視点・価値観

- ・民間でできること・公共でできること・個人でできること
→レイヤーごとに整理することが大事
- ・学校学習・学びの機会を創ることが大事だがどうしていくかモヤモヤ。。
- ・行政的な話として捉えがち → 公益的な繋がりで連携していくことの重要性
部分最適→全体の最適
- ・未利用資源の活用…地下水、その価値を捉え活用していくこと
- ・規制の緩和…民間の活動を広げるための規制の緩和することの重要性

発表の書き記し

チームD・NPOや企業や中間支援団体やいろんな人の声が集まるチーム

- ・思った以上にできることはたくさんある
 - 自分達の中のリソースを活用してどうやったら稼ぐのか
- ・国家資格をつくるのどうか
 - ネーミングやシステム創るのが大変、、モヤモヤ
- ・ドローンで赤外線のカメラを活用できないか
 - お金を誰が出すのか？モヤモヤ
- ・防災士の資格
 - ネイチャーポジティブに資する内容を必須科目にするのはどうか
- ・新入社員教育セミナーパッケージとして活用できるのでは？
- ・メンテナンスする際に間伐などの手入れもセットにする
- ・集まることで自分自身の知見も広がる
- ・とにかく唐津は広い。わかっているようでわからないこともたくさん

発表の書き記し

チームE

- ・モヤモヤ…自分ごとになっていない
- ・人とのコミュニケーション
 - 何かをしようとする足引っ張る人も出てしまう
- ・1割が変われば地域が変わる
- ・唐津は歴史も文化もある特徴のある地域ではあるが自然資本と結びつけていない
 - コミュニケーション不足
- ・1割の変人・変態たちが集い、地域に向き合っていく
- ・長期的な共有の場をもつことの重要性
- ・

発表の書き記し

チームF

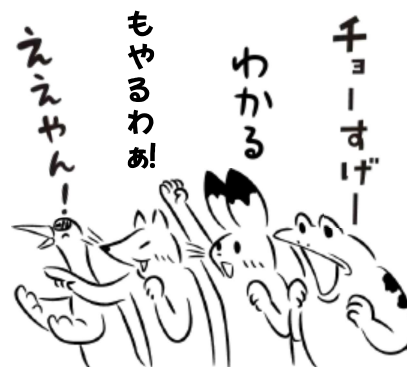
- ・自然資本ビジネスとして捉えにくい
 - 当たり前すぎてそこに価値がつきづらい
- ・自然資本を評価する基準が絡み合っていて評価しにくい
 - 地域ごとでの指標をつくると整理されるのではないか
- ・商品を開発する→購買行動によって保全に繋がっている
 - そういう仕組みをつくることが大切
 - 具体の商品する時の阻害要因…利権・既得権益
- ・感度が高い人たちもいるが仲間が少ない

世の中何に価値があるのか

自然資本の価値付の難しさ

新しい違った価値を見つけることの大切さ

グループワーク 発表に関するフラッシュコメント



講師/運営集合写真



講師/運営/参加者集合写真

